

3. 家族性大腸ポリポージスと出会ってわかったこと

病気に感謝

病気になったお陰で、私は頑張り過ぎない。発病前は、もう少し、もう少しと自分に無理を強いて、クリア出来ない「何で出来ない」と自分に鞭打って。自分を責めて、人を攻めて・嘆いて。手術後は特に、昨日まで出来た事「歩く・座る・持つ・食べる・排泄する」等当たり前にしていた事が、本当は私の体が一生懸命頑張っていた事を感じました。痛みが無ければ何処の筋肉を使っているかも自覚出来なかったけれど、人の体って素晴らしいと感じる事が出来ました。最近私を目的地まで運んでくれた手や足に、仕事や趣味や旅行をさせてくれる家族や友達に感謝して眠りに就きます。私は床に入ると薬や特別な工夫をしなくても五分で熟睡モードになれるのも、きっと自然に心と体のバランスを取ってくれているからと思います。このバランスが崩れを気付かないまま放置すると徐々に病気に近付いて行くのかも知れません。

決断とエネルギー

病気の人が居ると、思わず「頑張れ」と励まし「ちゃんと食べないから病気になった」とか「痛いか」「辛いか」「しんどいか」「早く元気になって」「プラスに考えて」「もっと努力して」「無理しないで」と言われます。病人には色々な生き方や考え方が有ります。「苦しい治療でも一縷の望みが有れば生きるために頑張る人」「生きたいけれど苦しいのは嫌な人」「簡単に今の症状を取り除いて以前と同じ生活がしたい人」「無理して生きるより楽に死にたい人」「家族に迷惑を掛けるなら早く死にたい人」人の数だけ生き方・考え方が有ります。どれが正しいとか間違っているかと言う答えは有りません。私はこの 25 年の間に色々な生き方の生き様を目の当たりにして来ました。それぞれに素晴らしい生き方だったと実感しています。長く生きたから幸せとか短かったから可哀想とか。評論家は当事者ではないから色々言えますが、何かを決めるのに凄いエネルギーが必要な事を解して下さい

